

令和3年度5月定例麻績村教育委員会 会議概要

開催日時 令和3年5月7日(金) 午前9時30分～

開催場所 麻績村地域交流センター 第3・4研修室

出席委員	職務代理	市ノ瀬淳一	委員	小山正文
	委員	宮川裕満	委員	宮下温子
出席職員	麻績保育園長	塚原京子	麻績小学校長	佐々木英明
	筑北中学校長	臼井伸明	教育長	飯森 力
	教育次長	塚原優仁	主事補	龍頭詩織

1 開会

2 教育長挨拶

①教育長挨拶

3 報告事項

①教育長報告

- ・近況報告、小中学校の留守番電話対応について報告

②保育園長報告

- ・近況報告

③小学校長報告

- ・近況報告

④中学校長報告

- ・近況報告

質疑内容

教育長: 中学、バスケットボール部の部活動は上手くいきますか。

臼井校長: とりあえずのところは上手く行くはずですよ。委任指導ですよ。

教育長: 委任指導で、新人戦のところがちよっと問題が起きてくるかなと思うんですが、

大丈夫でしょうか。6人全員が。

臼井校長:とりあえずはもう聖南中と合同でやっていますので、それで行くと思います。交通費とかそういうところは予算立てしていただいてあったと思うのでそこを出すということでお願いします。

教育長:1年生6人全員が新人戦の時に選手に登録しておくところとちょっと厳しくなってくるのかな。

臼井校長:そうしたら1年生だからレベル的に変わらないだろうっていう状況にたぶんなってくるので、そうなったら部にせざるを得ないというか、もう一回委任指導と合同チームをお願いした上でダメって言われれば、筑北中学校ということで出ざるを得ないんじゃないかなと思います。塩筑の校長会というか中体連のほうである程度認めてくれれば良いような気がします。

教育長:そうですね。今、中体連も結構委任指導とか合同チームとか理解してきているのでいくのかなと思います。

臼井校長:委任指導はたぶんずっとこれからも継続で良いと思います。委任指導の後、大会出る時にどういうチーム編成にするかっていうのはその時々でわからないみたいなので、部としてまた作らなきゃいけないのかということはお家の方とも相談しながら、また教育長と相談しながら考えていこうと思います。

教育長:わかりました。ただ部にするには、部にする部分は全然問題ないんですけど、練習会場とかいろいろな部分が影響出てくるので、そこら辺も上手く考えてかなきゃいけないなと思っています。またそういう時があったらできるだけ早めでご相談いただければと思います。

臼井校長:いずれにしても10月の新人戦の時にはそういう話になってくるので、夏の大会終わったらどういう対応していくか社体の人と話をしなきゃいけないかなと思います。

教育長:はい。よろしく願いいたします。

宮川委員:保小中とも今コロナに対して慣れっこにならないで、しっかり自分が思っている以上に対策してくれてるなと感じました。中学の吹奏楽なんですけど、6名でしたよね。今年って生坂とか聖南中と合同の練習って考えてるんですかね。

臼井校長:合同の練習は北部の音楽祭に向けて必要になってくると思います。でも単独チームで県の吹奏楽の大会とか出たいと言ってるみたいなので、小編成で何かできるようなことを、ということだと思います。

宮川委員:そうですか。ありがとうございます。

宮川委員:さっきの教育長の話なんですけど、緊急時の電話で、留守電というのは転送ということですか。

教育長:受けた電話がありましたよという、通話中の転送じゃなくて1回切るような形になりますけど、改めて電話をするという形になると思います。

宮川委員:ありがとうございます。

宮下委員:小学校ですが、4月の授業参観と学年PTAがZOOMでの実施ということで、すごくスムーズに進められたんじゃないかなと参加して思いました。7月の参観日については、もしコロナの関係でレベルが上がった場合は、参観も学年PTAもまたZOOMになる可能性があります。そうなると、その後に付いてる「教育を語る会」というのはどういう形の開催になるのかなと思うのですが、どうでしょうか。

佐々木校長:基本的には直接会って話をする会を作らない限りは納得いただけないと思います。学校だけであればそれこそ全保護者を1つに振り分け、そしてブレイクアウトセッションで小グループも問題なくできると思うんですけど、たぶんそれは納得いかないんで、レベルが下がることを期待してやる予定です。もしレベルがこのままの状態で開催できないとなると、日にちをずらしてくという風にせざるを得ないんじゃないかなと思っています。本当はもっと早くやりたいんですよね。「7月なんて遅い。」って言われています。でも今はこのコロナ禍だから無理ですよという風にして、そんな慌てないほうが良いし、学校行事も色々あるので7月がちょうど良いですよというところで押さえています。

小山委員:保護者の方が集まりやすい日でなければ意味ないと思いますので、7月でいいと思いますよ。

佐々木校長:とにかく準備は7月をゴールにしてきちんと整えていきたいと思っています。

宮下委員:ありがとうございます。

小山委員:学習の手引きを小中学校とも各ご家庭にお配りいただいているんですが、何か各ご家庭から良きにせよ悪きにせよ反応ありますか。

佐々木校長:連休前に配ったのでまだここ2日ですけど、これがどうのこうのという反応はなかったです。5月に1回家庭学習週間ということになっていて今日通知を出したんですけど、そのようなところでまた学習の手引きについて話題になってくるかなと思っています。

白井校長:中学校は反応ないです。

小山委員:上手くご利用いただければ良いんですけども、ごみと一緒にされちゃうと困るかなと感じています。

#### 4 協議事項

##### ①新型コロナウイルス感染症対策における対応について

市ノ瀬職務代理:去年、対応マニュアルを各学校・園で作られたかと思うんですけど、例えば濃厚接触者が出た場合の対処の仕方、それからもし生徒・児童の感染者が出た場合はどうするのかというのは決まってきましたでしょうか。

佐々木校長:塩筑の校長会のほうでも感染者が出てる学校はあって、雛形にその度に修正加えたものが出てきてるので、筑北中と麻績小と同じ形のものができています。

市ノ瀬職務代理:その場合に例えばですよ、こんなことはあってほしくないんですが、村内の学校・

園で感染者が子どもに出た場合ですが、他地区なんかでもそうですけど、その学級・集団全体を PCR 検査するとかいうような話もありますよね。そこら辺はやることになるんですかね。

臼井校長: それについては保健所の指示に従うということが中心になってきて、どこまでやるかというところの濃厚接触者を判断するのは保健所だという風に思っているの、まずは保健所から対象の人に連絡が行くと思います。

市ノ瀬職務代理: ただ県とかあちこちの情報をちらっと聞いていると、県独自で、あるいは市町村独自でその学園全員を PCR 検査するとか、その場合の予算を市町村なりで出しているのかなと思いますけど、その保健所で濃厚接触と言われる以外に、今の変異株というのがかなり子供たちの間で広まるということを考えるのであれば、学級で全員 PCR 検査等を特別予算等でもつけてやったほうが良いのではないかなと感じます。

佐々木校長: 例えばこの麻績だとバス通の子が 40 人近くいると考えると、もう本当に接触者という視点から言えば結構あちこちなので、84 名の児童なら 84 名一気にやっちゃったほうが、学校の希望とかよりもたぶん保健所と教育委員会との関係の中だと思うので何とも言えないんですけども、良いだろうなと思います。我々今まで PCR 検査を受けるということは濃厚接触者と判断されたからだと思っていたのが、保健所がその学級全部を受けさせるってなった時に、濃厚接触かどうか判断するために PCR 検査をとりあえず受けるんだと言われて、昨年塩尻市内で小学校 1 校出た時には、学校が初め全員を濃厚接触者みたいに通知を出しちゃったからちょっと混乱したことがありました。保健所も今まで言ってきたことと今やってる実際の動きの中はかなり違ってきているんだなと感じました。なのでやっぱり保健所の言うことをとにかくきちんと聞いておいて、その場その場で対応しないといけない部分が多いんだなということを校長会の中で確認しました。

教育長: 私も教育長会のほうでちょっと話があったんですけど、保健所抜きにして色々やるとだいぶお叱りを受けるようです。要するに経路が全然わからなくなってしまいうようです。初めのほうに青木の小学校で出た時に青木村は本気になって村内放送から何からして一所懸命徹底してやったら「とんでもない話だ。」と言って保健所からだいぶやられたというお話でしたので、まずは保健所の指示に従ってやらなければ上手く行かないよということで、それによってクラスター等もあまり発生に繋がらなかったと言ってました。そうは言ってもこの地区だと、例えばの話小学校で出ると、中学まで一応とりあえず出た時点で次の日あたりは、出たところにもよりますけどお休みする。要するに兄弟がいるともう確実にそのクラスの子供たちに兄弟がいると大変ですし、保育園も同じことだと思います。そういうことも考えてかなきゃいけないということで、一応村の対策としては考えています。そうなるとたぶんクラス全員 PCR 検査を受けるようになると思いますけども、保健所の考え方がだいぶ変わってきているようですので、何とも言えません。昔で言うインフルエンザ並みの解釈になってきていて、3、4 人出ても学級閉鎖で済ませるとか、そういう状況も出てきているようですので、何とも言えない

ところですけど、できる限りクラスターに繋がらないように考えなきゃいけないと思います。たぶんそこら辺が上手いところが、長野の高校あたりが出ているんじゃないかなと思います。そんなところでよろしくお願いします。

## ② 小学校 PTA の意見交換会開催を求める要望書

塚原次長: それでは次に小学校 PTA から提出していただきました要望書についてということですが、小学校の資料にもありましたけれども、うちのほうでも 1 枚 A4 の紙で用意させていただきました。会長さんお一人でお持ちいただきました。これに関しましてはこちらのほうでどのようにいたしますでしょうか、としか言いようがないんですけど、小学校の校長先生からお話出てますし、委員さんからの質問もありましたけれど、ある程度 PTA のほうからということで、内容を詰めたりどのような形でやるということをお話していただいた上でなのかな、という気はしています。これに関しましてはどのようにいたしますでしょうか、と投げかけになってしまいますけど、よろしくお願いいたします。

教育長: ということで、小学校長佐々木先生のほうから案が出ていますので、そんな感じで向かっていくということで、教育委員の皆さんいかがでしょうか。

小山委員: よろしいと思いますが、前回の話では意見交換会の前と後に行事があるということでしたが、時間的にはどのくらい取れるものでしょうか。

佐々木校長: 相談だとは思いますが、今のこういう時期でもあるので、長時間にはできないんじゃないかなと思います。1 時間以内で収めたいです。

小山委員: いずれにしても会の初めには時間決めはしないと、ダラダラ行っちゃいますから、まあ 1 時間以内というところだと思います。

佐々木校長: それじゃちょっとできないなって思いますね。土曜参観なので、全てを含めてお家の方たちなのでお昼には帰れるというのは保証しないといけないなと思っていて、そこを見ながら時間を詰めていきたいと思います。1 時間を超える時間はいくら求められてもそれ以上伸ばさないようにしたいと思います。

小山委員: 保護者の皆さんにも意見交換会をやるという話は正式には伝わっていないでしょうけど、そのような雰囲気は伝わっているんですか。

宮下委員: 雰囲気はないですね。

佐々木校長: そうですね。このことは理事会で一応 1 回検討してるので、わかっているのは理事会に入っている方たちなので学年の会長さんで、まだ保護者の方たち 10 人くらいですね。

市ノ瀬職務代理: 主催は PTA ってことですか。

佐々木校長: 覚えてるかどうかわからないですけど、その時に「主催はどっちでも良い。」とおっしゃったんですよ。なので、「だったら私は両方に関わっているの、そのところは調整していきますね。」というところで今止めてあります。

市ノ瀬職務代理: それによって司会進行も変わりますよね。

佐々木校長: そうですね。PTA の副会長さんとか女性の方に進行やってもらうほうがスムーズじゃないかなと思っています。まあそこら辺も「どちらでも良い。」とおっしゃ

ってるんで、もう一回確認をした上でですけど教育委員会主催のほうが良いですかね。

市ノ瀬職務代理: 要望によって開くということなら要望した側が主催ってことになりますかね。

小山委員: 教育委員長宛に出してるから、教育委員会主催だとかおかしくはないと思います。

教育長: どっちでも良いんですが教育委員会主催になると学校の行事の中の時間をお借りしてという形になってきますので、どっちが良いのかなと思います。

佐々木校長: 要望書に挙げてある意見交換会の主たる内容 1, 2, 3 のことをとにかく直接説明をしてほしいということが一番だということで、「どっちが進行とかそういうことは関係なく、とにかく保護者に対して説明をちゃんとしてくれればとりあえず自分としては良いんだ。」という思いだと思います。色々仕切ってコントロールしていく上では PTA のほうで進行をさせていただくほうが上手くまとまるんじゃないかなと思っています。それでいいですか。

教育長: はい。

臼井校長: それで先程リーフレットの件で、保護者から「どういう風にやっていけるかどうか。」という反応はそんなにガンガン来ないかなと思うんですけど、学校ができるのは保小中一貫教育をどういう風にやっているかというところについて、説得力を持って示せるかどうかというところだと思うんですね。だから具体的な事実というか、「リーフレット作りましたので。」と言ったとしても具体的なものが見えてこない。「全然やってないじゃないか。」みたいなことになっちゃうかもしれないので、しっかりと学校のほうではどういう風に繋がっているかというところが見えるようなことで動いていかないとと思います。それをやることによって子供たちにかえてくるので、この保小中で連携をどういう風に取り上げているかということは大事なことだだと思います。絵に描いた餅にならないように、少しでもやっている雰囲気でも出てくれば、証拠があれば、「おおやってるじゃないか。」と思っただけの部分も出てくるんじゃないかなと思うので、具体的なものをしっかりと持って行かないと時間勝負だけどまた 10 回も 20 回もやらなきゃいけないようになってくると思うので、ある程度納得できる説得の材料みたいなものは用意しておかなきゃいけないかなと思います。

教育長: 私からすると、要望書の意見交換会の主たる内容 1 の中の「人数による子供の成長」というところが一番引っ掛かってきていて、後は付け加えてるだけとしか思えないんですよ。このリーフレットについてももうこれで令和元年、2 年、3 年と同じ部分で出し続けてますので、今まで何もなかったのがここで急に出てくるということが不思議なんです。それと保小中一貫教育の関係もそうですが、3 の「保育園・学校部会のまとめ」もそうなんですが、これもやるために全部館報に掲載して、住民には全部お知らせはしてきていますので、そのまた言い返しをしていくだけの形になってしまうということだと思います。一貫教育の導入の狙いなどもリーフレットの中を説明してやっていくと、それと今臼井校長先生からお話があったけど、それについて今どういう状況かということをしっかり説明できる状況を作っていけば良いのかなと思います。いずれにしろそれはそれで時期

が来ればまた意見交換会が始まるということなのですが、そういうことの上手く理解していただけない部分をどうしようかなと私は思っているんですけど、また校長先生と相談しながら、教員の皆さんとまた一応打ち合わせは組んでいきたいなと考えています。あともしこの時に説明すると少なくとも15分か20分どうしても取られてしまいますが、えらく簡単にやるとまたわからないとなるので、弱ったなという感じです。保護者はリーフレットとかについて前に説明した時にはいなかったんだな、子供が。

宮下委員: 参観日の後の子どもの下校の問題もあると思うので、できれば上手く人が集まる時にやるしかないのかなと思います。参加しない保護者もいるんじゃないんですかね。

佐々木校長: まあそうですね。今教育長おっしゃるように結構この1、2、3は考えて並べたし、言葉を選んだなというのはご自身でもおっしゃっていました。1番のところがやっぱり大事ということなんだけど、ただそれは個人的な考え方なんだけど、今おっしゃっていることは「保育園・学校部会の頃のことを知らない保護者もいるということは確かだ。」という風にして、「改めて、今こんな風にやってきていること、これからこうやろうとしていることをみんなに知ってもらう必要があるんじゃないか。」と言ってることはこっちも納得いけることだし、実際にお話を聞いてると、お家の方たちも「ああそうだったんだ。何となくやってたけど知らなかったな。」というのがいっぱいあります。なので改めてお話を伺うという面では保護者にとってプラスになるので、そこを大事にとりたいので、とにかく「だからそれじゃダメなんだ。こうじゃなきゃダメなんだ。」という風に意見は言わせたくないなと思います。みんなで「だから子供たちこうしていきたいね。」とか、今の中でもGIGAのこととかも話題にはなるだろうし、ひょっとしたら義務教育学校という言葉もだんだん聞こえるようになってきてそういう方向みたいなものも話題になるかもしれない。説明を受けた後のいくつかのテーマみたいなものを作ってそのことについて話し合うような小グループができてもいいのかなと思っています。やり方次第かなと思っています。

教育長: ありがとうございます。ちなみにリーフレットは保育園でもみんなに配ってるんだよね。

佐々木校長: 保育園に渡すの忘れてました。

塚原園長: 保育園はまだいただいてないです。

教育長: 保育園も一緒になってるので、データだけ送っておいてください。

佐々木校長: データ送ります。

塚原園長: ありがとうございます。これやっぱりカラーで配った方が良いんですね。わかりました。

教育長: ではまとまりはしないけど、そんな方向で行くしかしょうがないですね。

小山委員: 今教育長がおっしゃった、どうして筑北村と麻績村が別々になったかということも説明しなきゃいけないようだと思いますけどね、その方針をあるかなかでそれをお話しして、過去の経過を理解していただきながら今こうなってるんだという

ことで。それをじゃあすぐ早急に一つにするなんてことは当然無理な話なので。  
教育長: 言い方悪いけど、そこへ来て筑北村の議員さんが見えるように「麻績村が言って  
くれば検討するさ。」というような言い方で逃げちゃったから、余計ちょっとこ  
とがややこしくなってきたちゃっています。そうじゃなくても「筑北村は今こうい  
う方向で進んでるから。」ということで一筆いただければ良かったんですがそう  
じゃなくて、「そういうことになればうちのほうはいつでも受け入れる態勢なの  
で、麻績村から言ってきてくれれば良いよ。」ということが先に出ちゃったので、  
ちょっと混乱したかなと思っています。まあそこ行けば今度は合併は違う自治体  
との合併になりますので、教育委員会が進める問題じゃない部分だということ  
を全然理解できないので話が難しいです。そんなことでまたちょっと進めてきて  
いきたいと思いますが、7月10日で予定を組んで良いですかね。よろしくお願  
いいたします。

小山委員: 開催時間を1時間以内するなら1時間以内にして、1回の発言時間もある程度区  
切らないと、もうダラダラと自己主張のような形になっちゃいますから、1回の  
発言時間も2分とか3分とかと区切る必要があると思います。

佐々木校長: 全体の討議で説明を受けた後に質疑をあまり長くしたくないんです。それやりだ  
してもし喋りだしたらダメなので、もう説明を受けて簡単な説明、思想があつた  
ら出してもらうんだけど、もう後はグループ討議のような形の意見交換会にして  
しまうのがいいだろうなと思っていますけど、それにはまだまだ内容を詰めなき  
ゃいけないので、少しずつ話題にしていきたいと思っています。

教育長: どうでしょうかね。まあどっちが主催するかということもちょっと考慮しなが  
ら、もう少し時間いただいても良いですかね。それとも早く話しますか。私のほ  
うでとても心配しているのは、PTAのほうでやっても良いんですが、後々司会者  
がいじめられてもいけないなと考えています。

佐々木校長: たぶん大丈夫だと思います。今お母さんたちしっかりしてるなどこの間理事会で  
心強く思いました。なので、たぶん学校側でやっていったほうが上手くコントロ  
ールできるんじゃないかなと思います。対立の構図は作りたくないと思っていま  
す。

教育長: その心配がクリアできれば全然問題はないです。

佐々木校長: たぶんそのほうが良いんじゃないかと思うんですけどね。

教育長: 今のお母さん方も強い方いらっしゃいますもんね。

宮下委員: 意見交換会は今回の理事会の皆さんを交えて行った方が絶対良いと思いますし、  
そのほうが他の保護者の方も参加すると思います。

佐々木校長: 例えば小グループを作る時に理事会に出ている学年の会長さんがグループの進  
行役ぐらいな感じに入ってもらうようにして、小グループで進めていきたいと思  
います。そこに教育委員さんがわかれて入ってもらうみたいな風にしていき  
たいなと思っています。この間、PTAの総会をやるやらないという時にも理事会の中  
でお母さんたちしっかりお一人おひとり意見をおっしゃってくださって、議決と  
いう形でやるかやらないかを挙手でやったんですけど、1人以外全員一致でやら



ないとなりました。それでもその後会長さん本人は納得をしてくださったので、筋を通して行けばそれをさらに何とかという風にならないのであれば、お母さんたちもだいぶ考えているだろうし、理事会の時間が伸びちゃったんですけど「私たちも子供が待ってますから。家庭はあります。考えてください。」と言って時間をピタッと切っていました。そういう面ではお母さんたちのほうが連携していて、母は強しみたいな感じですね。その進行方法含めて少しずつ詰めていきたいと思います。とりあえずPTAの作業が終わった後のところで、そこからまた具体的な話をしていきたいと思います。その都度またご報告しながらお願いします。

教 育 長: そんな方向で進んでいただければ良いと思います。良いですかね。ではそんな方向でいきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

## 5 その他

### ① 各委員から

(なし)

- ・側溝の金具とその周辺の植物への対応について
- ・コロナ感染者の状況など教育委員会への情報報告について

### ③ 事務局から

- ・小中学校G I G Aスクール構想の進捗について
- ・小学校転校生について
- ・要支援（就学援助）認定について  
⇒令和3年度7月定例麻績村教育委員会で検討予定

次回開催日程 6月1日（火）午前9時30分～

## 6 閉会

C

C